

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間)

仁方中学校区 校番 1

学校名 呉市立仁方小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・仁方中学校区での緊密な連携のもと、学校教育目標、経営理念、中期経営目標を統一し、共通の学校教育目標に沿って、重点項目が見直され、適切な経営目標が設定されている。 ・児童の生活の実態を十分把握し、呉市教育振興基本計画で示されている指標との差が大きい項目について目標達成に向けて児童目線での指標が見直されている。 ・「自己表現」「豊かな心」「業務改善」を重点として、中期(3年間)経営目標(本年1年目)、短期(今年度)経営目標を達成するため、木目細かい目標が設定されている。 ・子どもの体力・運動能力の低下が深刻な状況であることが懸念される。ソフトボール投げと合わせ、走力の指標も加えて検討できないだろうか。
目標達成のための方策の適切さ	A	・仁方小学校の学びの基盤である「スキルタイム」「スマイルタイム」「ぐんぐんノート」等を継続しつつ、昨年度の「結果の分析」及び「今後の改善策」を受け、児童の学びの主体性を引き出すための「目標達成の方策」が具体的に設定されている。 ・仁方中学校区で共通して「生活をよりよくするため」の視点で授業が展開され、生活場面と結びついた考える授業づくりが進められることにより、児童の思考力・判断力・表現力が高まることを期待する。 ・目標達成のための適切な方策が設定され、創意工夫が見られる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・自己評価の結果を達成された項目、未達成のすべての項目において、きめ細かく分析し、「○プラス」面、「●マイナス」面に整理して課題を明確に抽出している。また、教師が日常の児童の行動にしっかりと目を向け、現状とその背景を的確に把握した上での分析内容であることが分かる。 ・子どもたちの様子を細かく分析されており、各々の状況に適した指導を目指しているのが、理解できる。 ・夫々の目標に向かって方策・工夫により結果が出ている。分析も適切である。 ・仁方地区は、スポーツが盛んな地区である。特に、ソフトボールは、強いイメージがあるので、投げ方のコツなどを外部から指導してもらってはどうか。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・結果と分析を受けて、様々な角度から検討され、「ぐんぐんノートの活用」、「体育館の開放」等具体的に工夫された改善策が示されている。 ・日頃からの避難訓練等を通して、様々な場面で対処でき、「自分の命は自分で守る」児童の育成に傾注されていることが伝わってくる。 ・業務改善において、各担当から出された「業務改善策」が有効的に機能することを期待する。 ・基礎学力の向上、体力の向上は基本だと考えられるため、県平均に近づくよう保護者と連携・共通認識しながら改善策を進めていけたらいいと思われる。 ・今後の改善策(案)は、焦点をしぼり、夫々適切な(案)が示されている。 ・「自分の命は自分で守る」力の育成で、今後の改善策として、引き続き、地域の防災行事に参加していただきたい。
その他		・日常の業務に加え、教育研究会に向けて業務多忙の中、学校運営協議会資料の作成、大変お世話になりました。 ・教師が児童の意欲を引き出す様々な方策を考え、取り組まれている様子が伝わってくる。 ・体育館の屋根が錆びている部分が増えており、雨漏りが心配であるので、至急塗装をお願いしたい。 ・児童のため、避難者のため、体育館に冷暖房の設備設置をお願いしたい。 ・中学校区教育研究会と小学校家庭科教育研究大会、公開授業、期待しております。

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○生活をよりよくするために、自分の考えを深め、表現する授業づくりを通して、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童の育成に、今後も継続して取り組む。 ○「体力の向上の方策」について、日々の取組(仁方小トレーニング、仁方小ストレッチ)の確認・改善をし、目標達成に向けての手立てとして活用できるようにしていく。 ○長時間勤務の削減に向けて、業務改善の研修を通して、各担当から出された業務改善案を精選して取り入れ、できることから始めていく。
--------------------	---